



2023年8月2日

荒川沿川の7区長による国土交通大臣への要望書提出

本日(2日)、斉藤 鉄夫 国土交通大臣に以下の3点の要望書を提出しました。

1. 京成本線荒川橋梁架替事業推進の要望書

京成本線荒川橋梁付近の堤防は、周辺の堤防と比べて低くなっており、必要な高さまでかさ上げするためには、橋梁架替の早期実現が急務となっています。現在架替事業に着手していますが、完成までには一定の年数がかかるため、予算と人員を確保し事業を確実に進めるとともに、さらなる区との連携や地域の水防活動の取り組みへの支援について、引き続きの協力を江東5区連名で斉藤国土大臣に要望しました。(葛飾区、墨田区、江東区、足立区、江戸川区)

【経緯】

- 平成16年 国が京成本線荒川橋梁架替事業計画を発表
- 令和2年1月16日 江東5区長による国土交通大臣への要望書提出(1回目)
- 令和2年8月28日 江東5区長による国土交通大臣への要望書提出(2回目)
- 令和3年7月15日 江東5区長による国土交通大臣への要望書提出(3回目)
- 令和4年7月26日 江東5区長による国土交通大臣への要望書提出(4回目)

【事業概要】

- 場所 東京都葛飾区、足立区
- 橋梁架替事業に要する総費用 約730億円
- 事業期間 平成16年度～
- 事業内容 京成本線荒川橋梁架替

※別添の写真は、左から 斉藤猛 江戸川区長、近藤やよい 足立区長、
斉藤鉄夫 国土交通大臣、青木克徳 葛飾区長、山本亨 墨田区長、木村 弥生 江東区長

【青木克徳葛飾区長コメント】

令和5年2月に起工式が開催され、橋梁架替の工事も本格的に始まりました。さらに、橋梁の線路部については、令和3年度の parapet が設置され、線路の大部分が踏切状に平坦化する等、これまでも国と連携して荒川橋梁部の水防活動を進めてきました。この度、早期の荒川橋梁架替の完成に向け、これまで以上に国と江東5区の連携を強化していく必要性を大臣と共有することができました。橋梁架替に伴う堤防強化の早期実現に向け、今後も積極的に取り組んでまいります。

2. 荒川第二・三調節池他整備等治水事業に関する要望書

荒川は、政治・経済の中核機能が集中する首都圏を貫流する我が国屈指の重要な河川です。荒川下流部における安全で豊かな潤いのある地域の実現のため、荒川第二・三調節池の整備等、治水事業に関する早期実現を荒川沿川の7区連名で斉藤国交大臣に要望しました。今後も、荒川の治水事業に関する早期実現のために、今後も荒川沿川の7区で連携し取り組んでまいります。なお、要望は平成29年度から行っており、今年度で7回目となります。(墨田区、江東区、北区、板橋区、足立区、葛飾区、江戸川区)

【事業概要】

- 場所 埼玉県さいたま市、川越市、上尾市
- 全体事業費 約1,670億円
- 事業期間 平成30年度～令和12年度
- 事業内容 荒川第二・第三調節池の整備
面積 約760ha(第二:約460ha、第三:約300ha)
治水容量 約5,100万 m^3 (第二:約3,800万 m^3 、第三:約1,300万 m^3)
- 事業効果 荒川下流域の水位を最大約80cm低減

※別添の写真は、左から 犬飼 北区副区長、斉藤猛 江戸川区長、近藤やよい 足立区長、
斉藤鉄夫 国土交通大臣、青木克徳 葛飾区長、山本亨 墨田区長、木村弥生 江東区長、
坂本健 板橋区長

3. 中川における水辺の散策路等の整備に関する要望書

高砂橋から上流の国が管理する中川における国のかわまちづくり支援制度を活用した、水辺の散策路等の整備について、「中川かわまちづくり」の計画登録と予算の重点配分、事業を進める上での地域要望を取り入れた柔軟な対応について、葛飾区長名で斉藤国交大臣に要望しました。

【計画概要】

- 場所 高砂橋から上流の中川両岸(延長:約4.8km)
- 内容 水辺の散策路や賑わいの場となる展望デッキ、船着場の整備等

※別添の写真は、左から 斉藤鉄夫 国土交通大臣、青木克徳 葛飾区長

■本件についての問い合わせ先

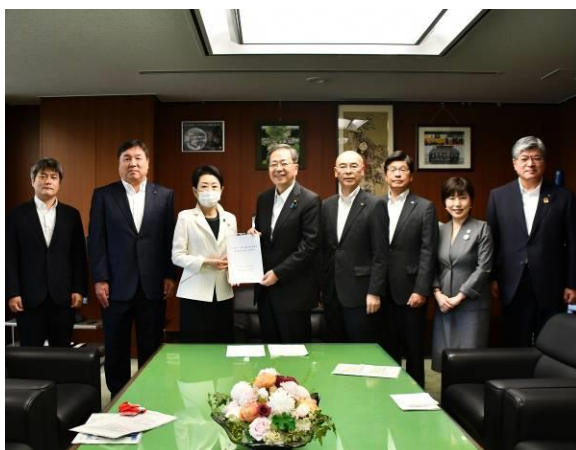
葛飾区地域振興部危機管理課

葛飾区都市整備部調整課長

1. 京成本線荒川橋梁架替事業推進の要望写真



2. 荒川第二・三調節池他整備等治水事業に関する要望写真



3. 中川における水辺の散策路等の整備に関する要望写真

